

若手歯科技工士に贈る“臨床力”を高めるための1冊

「今日から実践 包括的審美歯科技工」 を読んで

わかりやすくビジュアルに記された 臨床技工の「肝」

筆者と本書の著者である増田長次郎氏（姫路市飾磨区／カロス）との出会いはおよそ30年前。大阪セラミックトレーニングセンターの1期生・2期生の関係で、筆者が1年先輩であった。増田氏は卒業後、アメリカで著名な歯科医師と仕事を共にし、その後イタリアで審美歯科技工を中心に講演活動を展開されてから日本に帰国。それから審美だけではなく、歯周組織や咬合を幅広く学び実践され、今では包括的歯科技工の第一人者的な歯科技工士になられた。近年では、ほぼ毎年1回、大阪セラミックトレーニングセンター有志の旅行や業界での活動を通じて、楽しく有意義な時間を共に過ごしている。

その増田氏が今回出版された『今日から実践 包括的審美歯科技工』は、ハイレベルな咬合構築理論とセラミックスワークの肝を、わかりやすくビジュアルに表現した1冊である。著者が本書をまとめるうえで、歯科医師と歯科技工士の製作物を理論と実践で作り上げる時間と労力は、並大抵のものではなかったことが窺える。

筆者にとって書物との出会いは、歯科医療界での大きな変化に対応し、歯科技工士としての臨床力を高めるうえ

での礎となった。おそらく誰もが同じような経験を経て、成長を重ねてきたものと思われるが、本書を若い歯科技工士の方がたが読めば、歯科技工士として成功を収めていくうえで何が必要かを学んでいただけたらと思う。

内容を見ていくと、序章「メッセージ—私の技工人生を振り返って」では、増田氏が海外で豊富な技工経験を積んだ後に帰国し、より臨床力を身につけるために歯科医療の師・臨床の師とも言える筒井昌秀氏・照子氏（北九州市八幡西区／筒井歯科医院）に師事されたことが示されている。筆者の場合も適合に始まり、清掃性の高い形、特に咬合面の形態の確立のためには本多正明先生（大阪府東大阪市／本多歯科医院）に師事し5年の歳月が必要だった。師事した師匠は異なるものの、著者の多大な努力は理解できる。筒井昌秀氏・照子氏に力と炎症のコントロールを学び、増田氏自身が臨床と実践と勉強を通じ、長い時間かけて歯科技工士としての具現化を必死で導き出した内容が紹介されていることこそ、本書が必読の書であると考えられる理由である。

続く第1章では機能を捉えることを目的に、「咀嚼運動から捉えた機能的咬合形態のつくり方」が書かれている(①)。これはまさに「筒井咬合論」と言うべきもので、一見チェアサ

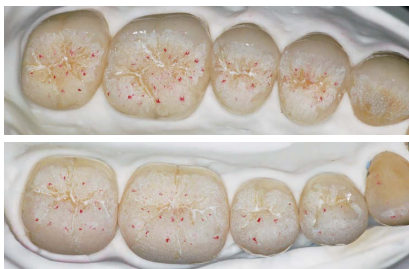


■増田長次郎 著
■A4判変カラー／130頁
■定価：8,000円＋税
■医歯薬出版株式会社 刊

イドの内容だと感じられるものでもあるが、歯科技工士が補綴装置（咬合面形態）を製作するうえで必要であり、知っておくべき内容である。

第2章では、色調を捉えることを目的に、「色調の捉え方と表現法」が記されている。本章ではオールセラミックス修復の特徴や注意点、また色調再現のポイントについて、多数の臨床写真による著者の製作ステップ、臨床実践や、歯周組織への形態表現のポイントが示されている(②)。そして、臨床の実践方法として、ワックスアップやレジンセラミックスに簡単に置き換える方法としてのプレスオンテクニックや、反対側がラミネートベニア修復の場合の製作ステップ等が記載されている。また白歯部では、最近特に審美性と強度の兼ね合いから普及してきているオールジルコニアクラウンのステイン法のポイントが記載されている。

本書の豊富な臨床例は、そのいずれもが「包括的審美歯科技工」の実践が見て取れるものであった。現在の歯科技工界の最先端の審美修復が、経験の浅い歯科技工士にも「肝」となる部分が理解できるよう、わかりやすく表現されている。素晴らしい臨床力と技工技術を持ち合わせた増田氏のしたためた本書を熟読していただき、明日からの臨床技工につなげていただきたい。（大阪府茨木市・デンタルクリエーションアート／西村好美）



①構築した咬合面形態（同書34頁より）



②口腔内に装着されたジルコニアセラミックスクラウン（同書117頁より）